

# 令和元年度 広陵町障がい者施策推進協議会 議事要旨

日時：令和元年9月25日（水）10:00～

場所：広陵町総合保健福祉会館 4階 中会議室

## 1. 会議次第

---

- 1 会長の選出
- 2 案件
  - (1) 広陵町障がい者計画等の進捗状況について
  - (2) 障がいに対する理解促進について（グループワーク）
- 3 その他

## 2. 配布資料

---

（当日配布）

会議次第、広陵町障がい者施策推進協議会委員名簿

（前日配付）

広陵町障がい者施策推進協議会会議資料（別紙1）

「広陵町障がい者計画」の分野別施策の展開に対する取り組み状況（別紙2）

## 3. 会議出席者

---

策定委員（14名のうち13名出席）

事務局：社会福祉課長、社会福祉課員2人

## 4. 議事概要

---

- 1 会長の選出

委員の互選により、会長が選出される。
- 2 案件
  - (1) 広陵町障がい者計画等の進捗状況について

事務局が、別紙1及び別紙2の資料に基づき平成30年度を報告。
  - (2) 障がいに対する理解促進について（グループワーク）

（発言内容については「5. グループワーク議事要旨」参照）
- 3 その他

今後、年度終了後の早い時期に協議会を開催する予定。

## 5. グループワーク議事要旨

---

○障がいに対する理解促進について（グループワーク）

### 事務局

先ほど、障がい者計画の取り組みについて説明いたしましたが、どの取り組みにつきましても、根底となるのは、まずは障がいに対する理解が大切である、ということであります。

町といたしましても、職員に対する研修は勿論のこと、身近な相談相手である民生委員に対し、「あいサポーター研修」を実施するなど、広報紙や町のイベントなどを利用して、障がい者との交流を図るなど、理解促進に取り組んで参りました。

しかしながら、「理解促進」といっても、どれだけ理解が進んでいるかは目に見えるものではないため、啓発が一方通行になっているのではないかと考えますし、また数値にできるものではないため、検証しづらい内容でもあります。

そこで、委員の皆様には、日ごろ障がい者支援に携わっていただく中で、こういうところが障がいに対する理解が進んでいないな、と感じることを挙げていただき、次に、では、それをどのようにすれば理解に繋がるかを、グループで話し合ってください。

——発表——

### 1 班

理解が進んでいないなと感じるところなんですけど、まず、こども課とか社会福祉課とか教育委員会とか、それぞれ、いろんなサポートを行っていただいていますけど、ただ残念だと思えることが、部署間が繋がっていないということを日々感じる場所です。

また、お母さん達は子供たちが大きくなるにつれ、いろいろな部署と繋がっていかれるのですが、それぞれの園とか小学校とかによって、対応が結構違うんです。

お母さんにとっては、個別支援計画を立てていただくのに、何度も先生方と協力して、特性の理解をしていただいて作っていただいた方もいらっしゃるんですけど、個別支援計画を見たこともない方もいらっしゃる、だから支援もうまくいっていないなと感じることがあります。

あとは、学習に躓きのある児童への学習への配慮なんですけども、基本的にみんなに同じ学習をさせようとするので、躓きのある子は沢山いますが、そういう子供たちに対する配慮として、例えばプリントをすべてするのではなくて、半分でもいいんだよとか、そういう配慮があるだけで、子供たちのやる気が大きく変わるんですけども、やはり子供たちの能力的からは少し高い課題を提示されることで、どうしてもやる気がなくなっ

て、自己肯定感が減っていったということが、現実、いろんな学校などであります。  
対処法として、サポートブックの作成とか、生まれた時から学校までの一貫したサポートブックや個別支援計画の活用ができたらな、という意見でした。

あともうひとつ、障がいを持つ方と地域の方とのつながりがなかなか持てていないということでした。

実際、事業所に通所される方を見て、子供たちが怖がり、警察に電話されたりしたという現状もあるみたいです。

やっぱり、自閉症の方たちが大きい声を出したりとか、そういう場面を見て、子供たちは怖がる。子供たちが怖がるとお母さんたちが警察に電話するとかいう風な行動をとられてしまうみたいで、例えば、町発信として、体育祭の中に障がい者の人たちや障がい児の子供たちが、みんなで一緒に楽しくできるようなイベントを入れたり、作業所の見学などがあればいいなど、皆さんから意見がありました。

あと、小学校3、4年生の年齢の子供たちへの啓発や教育が一番有効に働くみたいで、学習の中に入れていただけたらという意見もありました。

また、障がい者や障がい児を支える家族に対するつながりの場所に、ボランティアの方がもっと参加して下さったら良いのになあ、と言われてました。

その支えてくれるサポーターの皆さんが、例えば車いすの押し方を学ばれるように、発達の人たちに対する声のかけ方や、サポートの仕方を学べる機会があれば良いな、ということでした。

最後に、介護保険適応年齢になると、いままでは障がい特性の理解のある中でサポートしてもらってきた方々が、介護保険サービスに移ることで、なかなか特性理解がしてもらえていないということも感じるという意見もありました。

以上です。

## 2班

理解が進んでいないと感じるところが、やはり1班と同じようなことが取り上げられていました。

ほかでは、家を探すときに、障がい年金を貰っていることで入居できなかったことがあるそうです。

また、どこに相談していいか判らないと感じている方がいますが、そういった方ほど、様々な問題があるということで、子育て包括支援センターも、社会福祉協議会においても、相談窓口の強化を図ってほしいとされているところですけど、包括支援センターと社会福祉協議会の相談支援の充実と、PRにより、何か困ったことがあったらここに相談に行ったらいい、という流れを町の中で作っていくことが大切という意見が出ていま

した。

あとは、見た目で見えない障がいのことや、なんでも発達障がいや自閉症だとまとめてしてしまうことが、理解に繋がらない一因ではないか、との意見があり、解決策として、理解推進に関して、キャラバン隊を作って、地域の公民館なんかを利用して、理解を深める機会を作れば良いのではという案や、あいサポート運動を小地域単位で進めていくとか、先ほど、パンフレットやリーフレットを作れば、という話も出ていました。

やはり、地域で障がいを持っているお子さんたちが、小学校、幼稚園、保育園で過ごすことで、小さい頃から子供たちと関わっていくことで、きっと大人になっても理解ができていくのでは。

そのためには、地域でしっかり教育が受けられる環境づくり、加配教諭の人数を増やしてもらえとか、そういうところから繋がっていくんじゃないかな、という意見もありました。

また、福祉と保健と教育とがブツ切れになっているということで、先ほどの子育て包括支援センターとか、各相談窓口とか、しっかり連携してもらえたら、ということでした。

あと病院関係では、歯科で診療拒否をされてしまうことがあるようなので、医師会などと協力していくとか、町単位だけではなくて、自立支援協議会もあるので、広域でいろんなことを考えていっても良いのではという意見も出ていました。

発表を終わります。

会長

ありがとうございました。

それでは各班の発表を受けて、なにかご意見等ありましたら、よろしくお願ひいたします。

委員A

「子育て世代包括支援センター」での関係機関と月1回の定例会を開催しているとのことだが、関係機関とはどのようなメンバーか。

事務局

必要に応じて、役場以外の関係者も参加することはあると思いますが、月1回の定例会は、基本的には、けんこう推進課、こども課、社会福祉課などの関係の部署ということです。

委員B

「子育て世代包括支援センター」と「要保護児童対策地域協議会」との関係はどうなっているのですか。

いろいろな会を作ってしまったって焦点がぼけてしまって悪影響が起こらないのですか。

要対協は、虐待だけではなく、問題のある児童や母親や父親、特定妊婦の審議をするところですので、要対協とセンターとの関係について説明を頂きたい。

福祉部長

別の機関になるのですが、子育て包括支援センターというのは、妊娠期から見守りをしていくというところであり、要対協も虐待だけでなく特定妊婦の見守りというところもありますので、例えば、特定妊婦となりますと要対協に繋げていきますので、連携を取っていると認識していただけたらと思います。

——講 評——

会長

活発なご討論、ありがとうございました。

本当に難しい問題ですけれども、個人だけでなく地域、行政、メディアなんかも絡めて考えていかないといけない問題なのかなと思いました。

また、なかなかこういう機会がないと真剣に考えるってということがありませんので、皆さんの意見を聞いて、私自身も勉強になりました。

今後、皆さんの意見を参考にさせていただいて、日々の業務に取り組んでいただけたらと思います。

本当にありがとうございました。

—— 終了 ——